

ウツクシマツ情報局



令和4年度 第7号

ウツクシマツ自生地全域の落ち葉掻きをしました

ウツクシマツ自生地の全域に溜まった落ち葉を1月に集め、自生地外へ搬出しました。

落ち葉を堆積したままにすると、落ち葉が土の栄養となり、自生地内に腐葉土として堆積することになります。ウツクシマツは腐葉土層のような栄養がある場所では生長しにくく、地表が見えるような痩地で生長します。

このことから、落ち葉が落ち切った冬に地面の落ち葉を回収し、出来る限り土地の栄養にならないようにしています。

昔はこのような松葉や小枝を燃料や堆肥として利用していたことから、地元の方々によって日常的に管理がされていましたが、現在はそのような利用をしなくなったことから、市が業者に委託し落ち葉を回収しています。

自生地内のウツクシマツを守るためにはマツの生育に適した環境を整える必要があることから、今後も継続して事業を実施します。

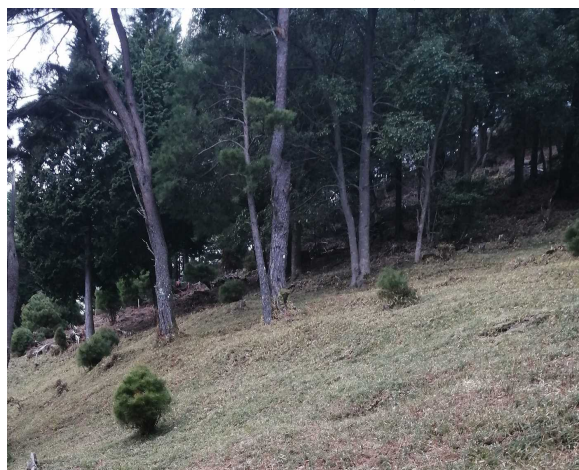


【実施前】

茶色い部分が落ち葉。このままにしておくと腐葉土になる。

落ち葉がなくなり、
地面が見える。

【実施後】





ウツクシマツ自生地の一部で腐葉土を取りました

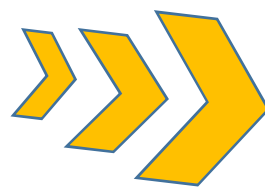
ウツクシマツ自生地は昔は地表が見えるほど堆肥が少なく、マツが生育しやすい環境でしたが、年月が経ち、落ち葉などが栄養となって腐葉土層が厚くなったことで瘦地を好むマツが生育しにくい状況となっています。

そのため、一部の区画に限定して堆積した腐葉土を除去しました。堆積した腐葉土層は10cm以上あり、腐葉土層を相当取らないと地表が見えないほどです。マツが生長しやすい環境にするためにはこの腐葉土層をすべて除去したほうがいいのですが、自生地内にマツの根が張り巡っており、根を傷つけないように慎重に作業をする必要があります。また、一度に広い範囲で腐葉土を取ると自生地の環境が大きく変化し、地表が流されやすくなることで、土砂災害が起こる可能性が懸念されることから、場所を区切って実施しました。

とはいえ、過去の堆積量も多く、年々腐葉土は増えるため、マツの生育環境改善のために引き続き自生地内の腐葉土層の除去に努めます。



【腐葉土層除去実施後】



＜拡大＞

＜未実施部分＞



＜腐葉土層を
取り除いた部分＞